

一般質問



岩本 議員

○国民健康保険税の軽減について

【質】国民健康保険税が4年連続増税となり高くて支払いが大変と、切実な声を聞きます。なぜ本市は県内で国民健康保険税が高いのか伺います。

【健康ほけん課長】国民健康保険税の税率・税額の算定は、県が示す標準税率・税額を基に、本市の被保険者数や被保険者の所得総額、一人当たりの医療費水準等を用いており、令和7年度は、県平均と比較して一人当たりの医療費水準が高かったことおよび所得水準が低かったことが主な要因です。

【質】令和8年度の国民健康保険税は昨年度と同様だが、納税者の負担が大きいのには変わりません。物価高騰で暮らしが厳しい今だからこそ、国民健康保険税引き下げに国民健康保険財政調整基金を使うことはできないか伺います。

【健康ほけん課長】国民健康保険財政調整基金は、大規模災害や経済事情の変動等があった場合に活用することを想定しており、これまで、基金を繰り入れることなく財政安定化に努めており、現時点での基金活用は想定していません。

○交通弱者に対する買い物支援について

【質】身体機能が、病気やけが、加齢等で低下し、車が運転できない方や居住地域の交通の便が悪い、車の免許を持っていない等で自由に買い物に行けない方がいるが、本市では買い物先への送迎サービスや同行での買い物支援の制度があるか伺います。

【政策企画課長】御厨地域まちづくり運営協議会において、高齢者等を対象にした買い物支援事業を実施し、軽自動車購入を含む運営経費に地域協働まちづくり交付金が活用されています。

【福祉事務所長】屋外での移動が困難な障害のある方が地域生活において自立した生活と、社会参加ができるようヘルパーが付き添い、外出を支援する障害者等移動支援事業を実施しています。

【質】買い物先への送迎サービスや同行での買い物支援が必要になる方が増加すると考えるが、今後どのような展開を考えているか伺います。

【市長】移動手段のない高齢者や障害を持つ方が安心して暮らし続けるための移動支援は大変重要であり、この課題を行政サービスだけで賄うことは困難であるため、市内全小学校区単位でのまちづくり運営協議会の設立が必要不可欠で、住み続けたいまち松浦の実現に向けて市民の皆さまの協力を賜りながら、積極的に取り組んでいきます。

一般質問



志水 議員

○松浦市地域防災計画の現状と課題

【こころ】

【質】災害時応急生活物資の備蓄品の有効期限切れによる廃棄や更新コストが毎年どの程度発生しているのか金額を伺います。

【福祉事務所長】過去3年間の実績で、令和4年度17万9820円、令和5年度購入なし、令和6年度109万7539円、令和7年度見込み額16万8912円となっています。

【質】更新に伴う廃棄について伺います。

【福祉事務所長】消費期限が過ぎたものは廃棄処分しています。

【質】自主防災組織の設立のための支援強化と継続的育成支援制度の構築や応急生活物資の備蓄目標の明確化と計画的な更新、ロス削減の仕組み、市民が参加しやすく、実効性のある防災訓練、啓発活動の充実について数値目標や実行計画を含めてお考えを伺います。

【市長】本市の自主防災組織の設立率については、50パーセント程度で「ともだビジョン」において百パーセント達成を掲げています。資機材の充実が優先ではなく、自主防災組

織を設立し、有事に備えて「助け合おう」、「声掛けを行う」といった意識づくりを持つことが大事だと思っています。

備蓄品の廃棄ロス削減については、非常用備蓄品を社会福祉協議会が運営するフードバンクに提供し、ひとり親世帯の支援に活用した事例もあり、今後も計画的な更新と有効活用を努めていきます。

住民が気軽に防災訓練等に参加できる体制づくりについては、多くの市民が参加できるよう輸送車両などのさまざまな課題解決に向け、引き続き検討していきます。

○福島地域の課題と今後の展望について

【質】福島町にはさまざまな課題が山積しています。福島町の未来をどのように描いているのか伺います。

【市長】福島地域は、これまで培われてきた地域の強みをさらに磨き上げ、人と自然、文化が息づく持続可能な地域として発展させていくべきと考えており、多くの地域資源と人材力を最大限に生かし、交流人口の拡大と定住人口の充実を図りながら、誇りを持って暮らし続けられる地域の実現に取り組んでいきます。

このほか、「松浦市の交流人口対策の現状について」を質問しました。